

令和7年度 子ども大学しき

1. 実施体制

子ども大学しき	学長	安達 一寿（十文字学園女子大学学長）
	副学長	柚木 博（志木市教育委員会教育長）
子ども大学しき実行委員会	実行委員長	木下 武久（NPO法人アンサーズネット）
	実行委員 （関係団体）	NPO法人アンサーズネット、十文字学園女子大学、志木市教育委員会
	問合せ先	志木市教育委員会生涯学習課（048-473-1134）

2. 事業内容

開催回数	2回	開催期間	令和8年2月28日、令和8年3月7日			
参加者数	24名	内訳	小学4年生	9名		
			小学5年生	8名		
			小学6年生	7名		

3. 実施内容

1 日目	開催日時	2月28日（土） 13:00～16:00	
	会場	いろは遊学館	
	講義名	なりきりマジシャン	
生き方学	講師	まちづくりマジシャンT o s h i 氏	「なりきりマジシャン」としてマジックを披露
	開催日時	3月7日（土） 13:00～16:00	
会場	十文字学園女子大学		
講義名	脳はダマされやすい？ - 実験で確かめてみよう-	錯視の実験道具を工作する様子	
はてな学	講師	十文字学園女子大学 心理学科 教授 池田まさみ氏	

4. 参加者の声

参加した子供の声 (感想)	<ul style="list-style-type: none">・マジックがとても面白く楽しかった。・マジックをていねいに教えてもらってできたときはとても心に残った。・マジックはどうやっているのかとても不思議でしたが自分たちもできてよかった。マジックができるようになってうれしかった。・マジックに興味をもつことができました。とても楽しかったです。・Toshi先生のマジックを見ることができてとてもうれしかったです。・初めて心理学や心について詳しくわかったことが多かったです。・脳や心のことを考えたこともなかったので楽しかったです。知らないうちに錯覚していたということがわかった。・心理学の時は錯覚と錯視の違いについてしっかり分かり錯視について知り、入ってフシギと思いました。ドラゴンが一番心にのこりました。・錯視は失敗しちゃったけど錯覚の実験はとても楽しかったです。・1日目のマジックは練習したりみんなと仲良くなって2日目の心理学は錯視を学べて良かったです。・マジックがわかりやすかったし脳についてもわかった。・マジックをしたり実験をするのがたのしかった。
保護者の声 (感想)	